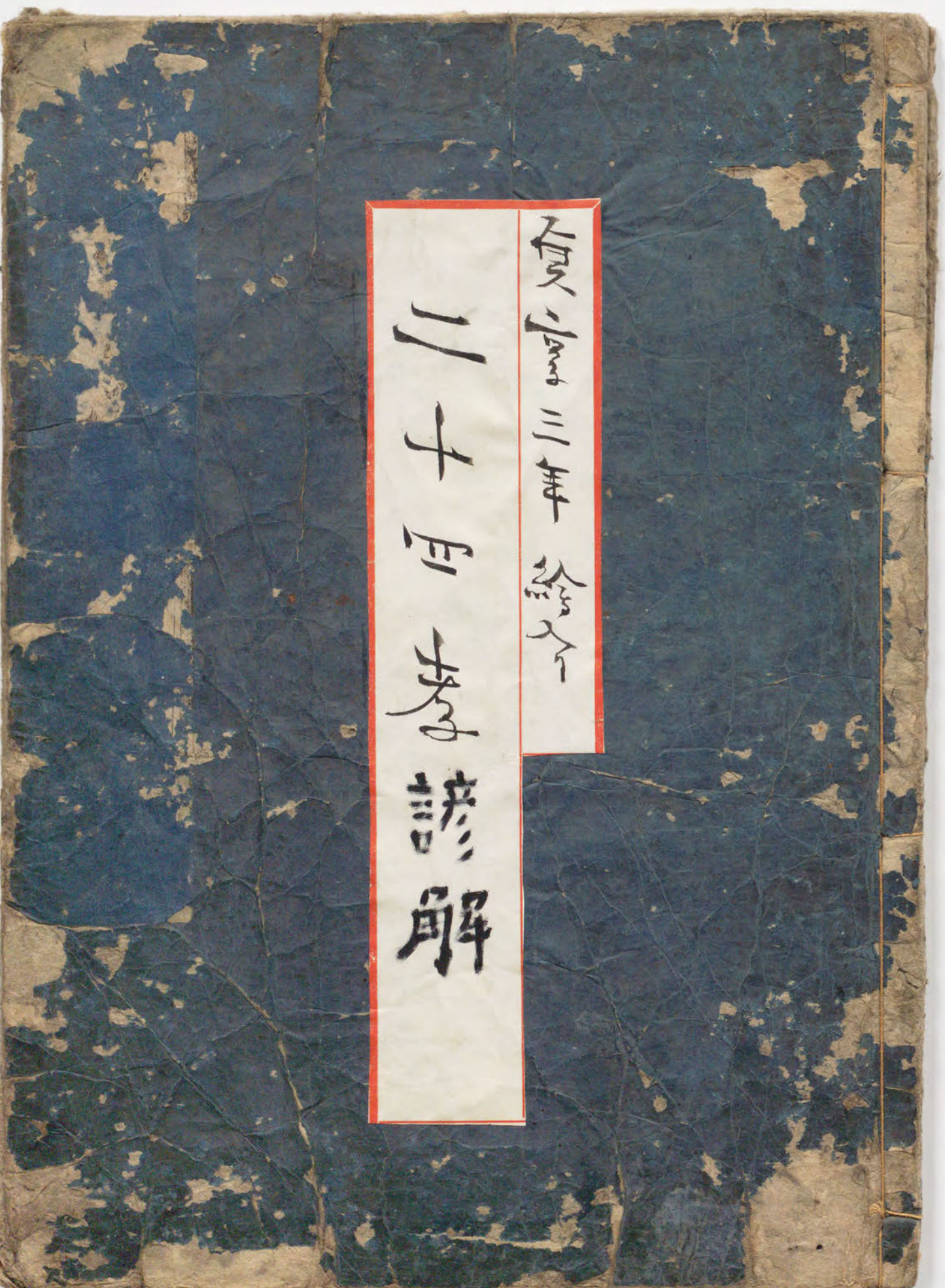
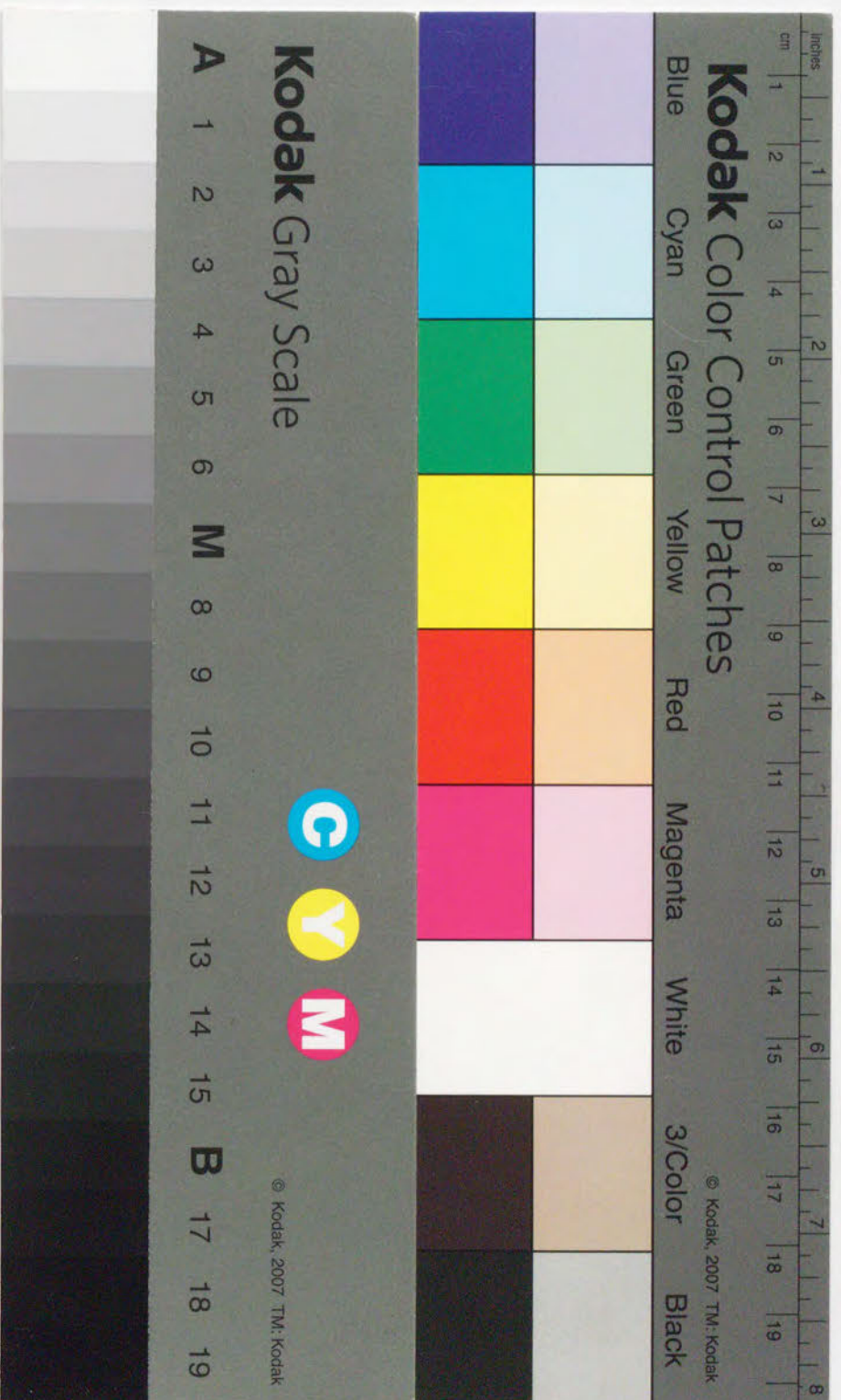






修志

又ハ驚<sup>おどろ</sup>使<sup>し</sup>て育<sup>う</sup>國<sup>くに</sup>ニカハ象<sup>しやう</sup>とて翁<sup>おきな</sup>カハのううとの母<sup>はは</sup>ハやと  
まうき人<sup>ひと</sup>おて心<sup>こころ</sup>ひびくうと<sup>いふ</sup>始<sup>はじ</sup>と<sup>いふ</sup>森<sup>もり</sup>孝<sup>かう</sup>行<sup>かう</sup>カハ<sup>いふ</sup>てつうさ又  
母<sup>はは</sup>ハとうとうと<sup>いふ</sup>久<sup>ひさ</sup>く<sup>いふ</sup>て我<sup>われ</sup>カハ<sup>いふ</sup>せめて又母<sup>はは</sup>ハ<sup>いふ</sup>我<sup>われ</sup>ハ<sup>いふ</sup>  
しもハ孝<sup>かう</sup>行<sup>かう</sup>のわさうと<sup>いふ</sup>使<sup>し</sup>天<sup>てん</sup>我<sup>われ</sup>ハ<sup>いふ</sup>いすしめあふかと<sup>いふ</sup>比<sup>ひ</sup>なれ  
かたうし<sup>いふ</sup>もまき<sup>いふ</sup>の<sup>いふ</sup>孝<sup>かう</sup>行<sup>かう</sup>の<sup>いふ</sup>佳<sup>き</sup>なり<sup>いふ</sup>て民<sup>たみ</sup>の<sup>いふ</sup>カ<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>て王<sup>わう</sup>位<sup>い</sup>  
おの<sup>いふ</sup>の<sup>いふ</sup>りの<sup>いふ</sup>よ<sup>いふ</sup>大<sup>だい</sup>の<sup>いふ</sup>字<sup>じ</sup>ハ<sup>いふ</sup>付<sup>つ</sup>か<sup>いふ</sup>事<sup>こと</sup>ハ<sup>いふ</sup>聖<sup>せい</sup>人<sup>じん</sup>おてまう<sup>いふ</sup>す<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>を  
とて書<sup>か</sup>く

|     |      |   |      |
|-----|------|---|------|
| 嗣   | タイ   | 源 | タイ   |
| ノイデ | タイ   | 々 | タイ   |
| 光   | キマウ  | 々 | タイ   |
| 登   | ノホル  | 耕 | カハス  |
| 宝   | ホラ   | 春 | ハル   |
| 位   | サニ   | 暴 | ツラ   |
| 孝   | カラ   | 紛 | フミ   |
| 感   | カン   | 々 | フミ   |
| 勅   | ウエカス | 彩 | ササユル |
| 天   | テン   | 草 | クサ   |
| 心   | シン   | 禽 | トリ   |

詩ハいまだ民あてすまふ時の事代他かとい時の名も重花とし  
 二十より四之寐王となりより兩ハ三十三の市年なり。後くとい八  
 がつより四代より民多の去り耕と六二月のは田代よりいふ云





下より上りてわたりけり。幾くして百王は冠しりといきてきた  
 かくちりきり事之百王は冠しりといきてきた。いふに、いふに、いふに、いふに、  
 の市門の中より、かきく孝行なまされけりといふ。百王といふ事、  
 せん百人の王は、かきく、いふに、いふに、いふに、いふに、  
 冠しりといふ百王の、いふに、いふに、いふに、いふに、  
 文王の冠は、かきく、いふに、いふに、いふに、いふに、  
 が、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、  
 ぶつ、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、  
 あむ、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、  
 一、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、  
 の、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、  
 と、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、  
 て、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、  
 り、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、

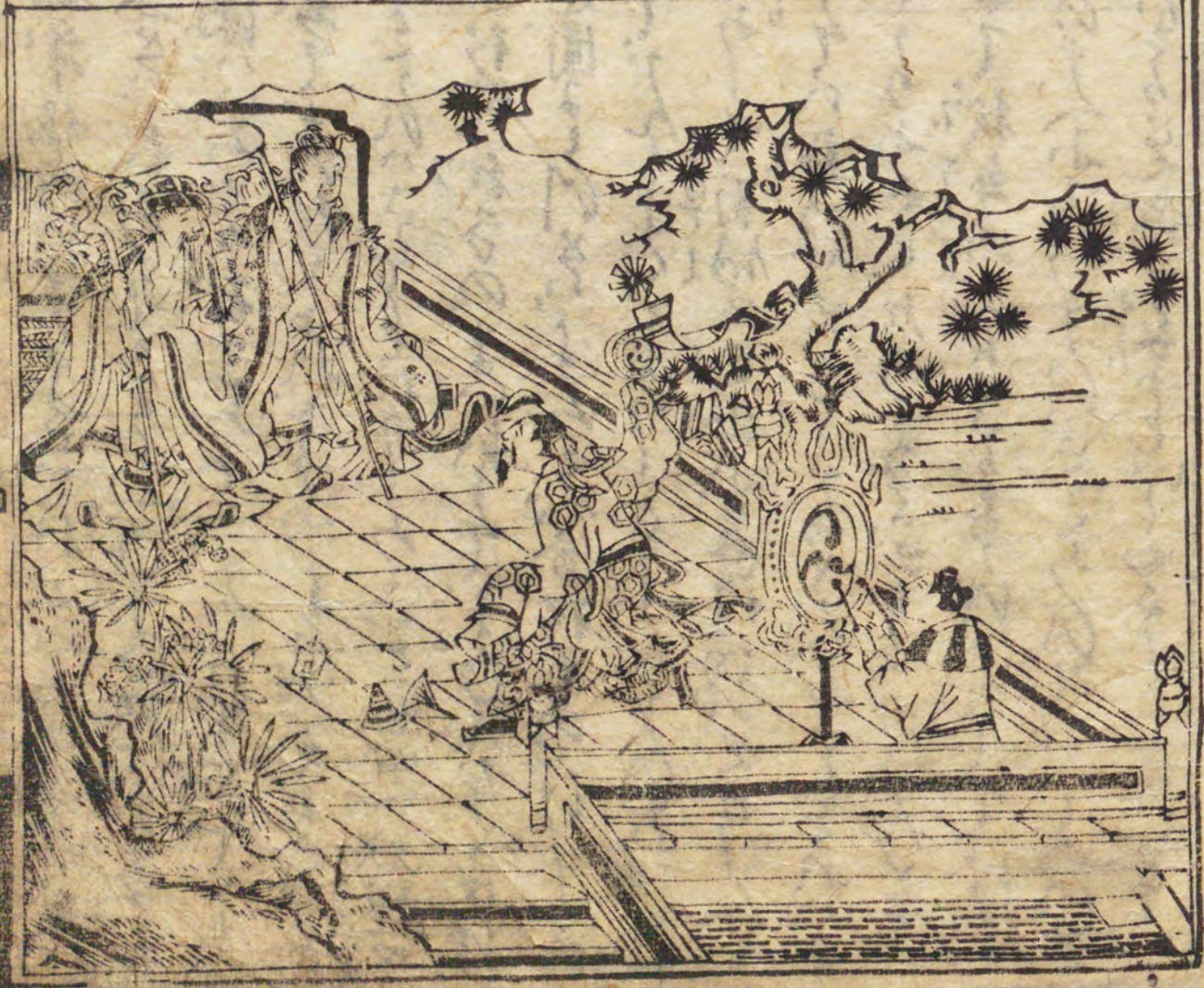
老萊子

楚國の人又固の代の  
 人といふ。列女傳の  
 ちりきり、いふに、  
 ま、いふに、いふに、

日記事云列女傳者萊子之妻

戲、いふに、いふに、  
 春、いふに、いふに、  
 双、いふに、いふに、  
 森、いふに、いふに、

詩一二の句ハ老萊子  
 人の親は、いふに、  
 三、いふに、いふに、



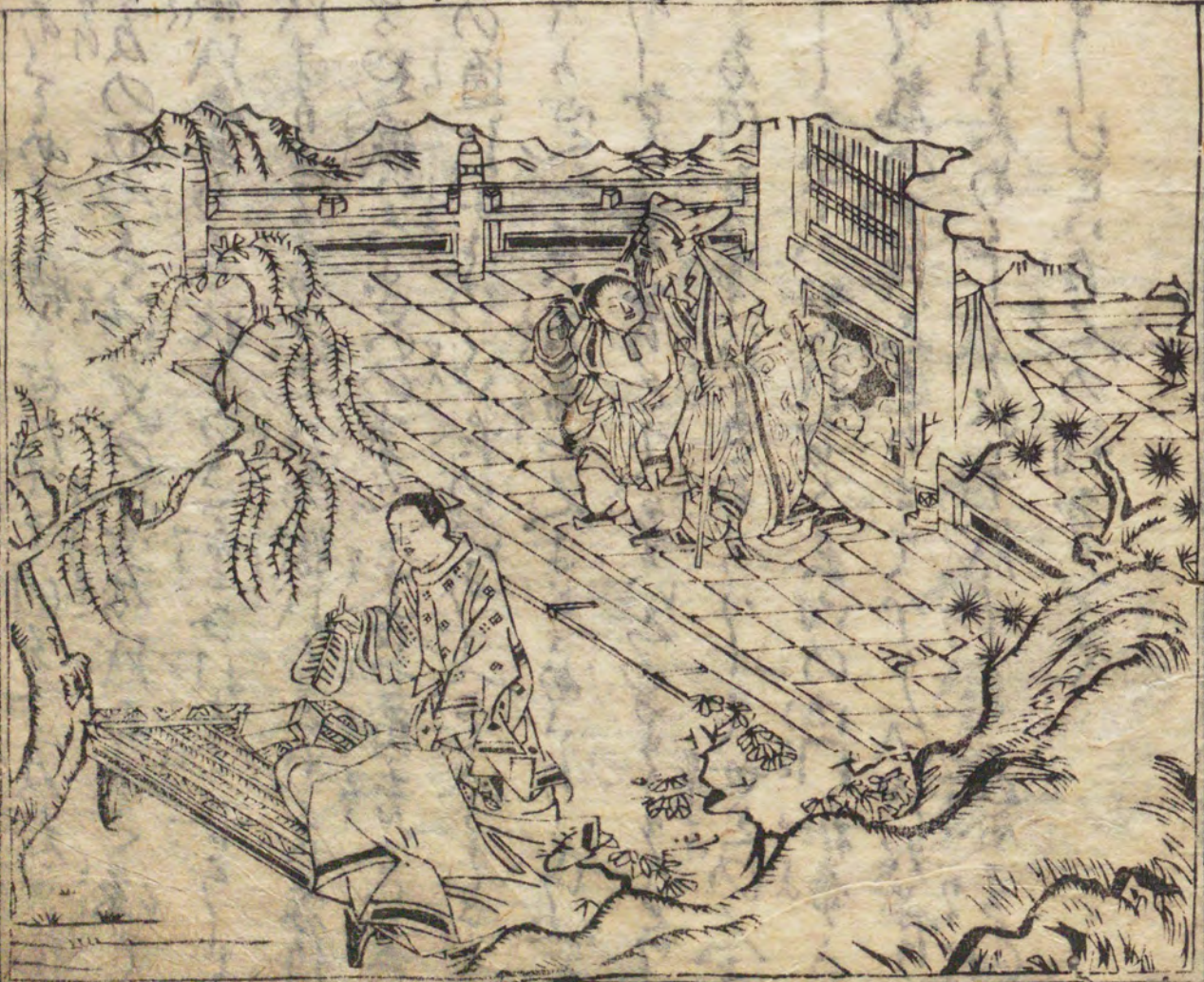
ろうひらき事代他か之 戲舞嬌疲はすまふにけふたもあれま  
 どいふ字にけうらひするまふにれろりろりろのまのひん事  
 春風緑衣はういふと 緑いあろ衣いあもてうろくやう  
 きいけうの事そればあまたうれきふま風をまふ  
 いてうろきいけうはういふとまふとまふと心双親は  
 びひいて笑ふ二人のちや我子のまひきうのんなくは  
 わひてういふと 緑衣を廻圍するまふとあやのけいさ  
 があひのちをういふとまふとまふとまふとまふと  
 心さうと老萊子七十他あて百何の父母も若行はつて人  
 我ううのまふとまふと親の心ふくうううううううう  
 とまふとまふとまふとまふとまふとまふとまふと  
 ううの何のいけうはきて我年のうろり事代うては  
 らうとわろめえのちやのまふてつていふとまふとまふ  
 くこく血はくまふとまふとまふとまふとまふとまふと

黄香

江夏安陸に小のなり  
 光莊のふらけすまふに  
 あんげうまふとまふと  
 して母をまふと父をまふと  
 つてう

冬月 温食 煖  
 夜天 麻枕 味  
 思童 知子 鹹  
 千古 一黄 香

冬月お食は過て煖  
 冬月のふらけすまふと





母の心と云はばいづれに父の心と云はばいづれに  
 母の心と云はばいづれに父の心と云はばいづれに  
 母の心と云はばいづれに父の心と云はばいづれに

因氏有賢良何曾怨晚娘  
 前田母在三子免風霜

因氏有賢良何曾怨晚娘  
 前田母在三子免風霜  
 母の心と云はばいづれに父の心と云はばいづれに  
 母の心と云はばいづれに父の心と云はばいづれに  
 母の心と云はばいづれに父の心と云はばいづれに

妻詩

後漢代の人なり父を  
 母を孝行せし人なり  
 其妻と云ふとめふ孝行  
 母の心と云はばいづれに父の心と云はばいづれに





交の夜也やと云ふは、  
 されど敷揮も、  
 名之、渠小膏血、  
 あつづきたるもの、  
 代敷、  
 之、親圍、  
 かあ、  
 移、  
 くれ、  
 何、  
 思、  
 の、  
 能、  
 ま、

等永  
 後漢の代、  
 延年、  
 一、  
 身、  
 年、  
 つ、  
 の、  
 つ、

天、  
 織、  
 絹、  
 儼、  
 倩、  
 主、





魯国の人々十五のうゑ

と山平示行て食らるる

あひまろ。ふれそ。者うけ行

の心ふくまはれて

みもふ班のびん

你  
山  
家  
白  
額

婦力持腰風

父子俱亡

脱身  
肌口中

源山小向  
魁より  
まへ  
ち  
ぐ

いふ  
ちうさひとせり  
支那





蕭シヤウ、竹タケ、數スウ、竿カン、頌スウ、吏ユエ、春シュン、爭セウ、出イッ、天テン、意イ、報ホウ

洞網風にきてで舞を。さ風小国の事。冬の新うはなれ竹  
の子れあふさやうな一ふおむひの移移して洞をみれば子之  
蕭々たる竹とらんた、ううくさ竹の志ありさうばえ之般年、  
くねやと竹のそと一は折てもさあ心之頃更あてま  
舞生とすうのうに夢と竹の子とくくさ舞とふさうれ  
竹の子より事之頃更。うぐのまは子。天を平家流かすすと  
ハ天孝竹はくんとて心やさうのまはくさむくおや成之流ど  
と。ささむくおと心之母さうりて成さうり、今あわらひ  
さきれハ時をぬ物ばこのあり。然とと蓋宗母の心ばりてりくかひ  
者の竹のふと一行で、太さ新うさうさな。天心を成く外で  
俄は竹のまうさきと眠れて、母のう成くさきとわのうさきと

郭巨  
父六文舉河南以爲  
人者。家貧。母老。  
母不孝。行つたなり。三ツ  
ふろ子。汲ちたり。其  
か母に汲ちたるをり。我  
食地。ひいてわんまり  
郭巨妻ふらして母の  
食多人。郭巨くおまへ  
す。さういふ。今の人。さ  
そとが。やん。おれ。我子  
の。まゝなり。母う。代。忍  
じ。それ。む。子。は。も。こ。わ  
る。一。母。二。友。あ。う。ぶ



